

[果樹部門]

2. 「おかやま夢白桃」成熟果の斑状着色は日当たりの良い幼果の果皮着色に由来する

[要約]

「おかやま夢白桃」成熟果の斑状着色は、幼果期の果実着色が残ることにより発生する。着色した果実の品質には問題はないが、斑状着色を軽減するためには赤く着色した幼果を摘果する。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は成熟果に斑状着色している場合がある。その程度が著しいと、選果の際に問題視されると考えられる。そこで、発生時期の把握と幼果期から着色している果実を追跡調査し、発生原因と対策について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 成熟果実の斑状着色は、幼果期に着色している果実で、ほぼすべての果実が着色する。一方、幼果期に着色していない果実では発生が認められない（表1、図1）。
2. 幼果を遮光すると、成熟時の斑状着色は認められないため、幼果の着色は果面への日当たりが原因である（表2）。
3. 果実品質、果肉内着色、生理障害の発生には幼果時の着色の有無による差は認められない（表3）。

以上の結果から、「おかやま夢白桃」成熟果の斑状着色は、満開40日後までの幼果期の果実着色が成熟期まで残ることが原因である。なお、着色した果実の品質には問題はない。

[成果の活用面・留意点]

1. 摘果時に着色果はできるだけ摘除する。

[具体的データ]

表1 幼果時の果皮着色の有無が「おかやま夢白桃」成熟果の果皮着色に及ぼす影響

区	成熟果の斑状着色	
	着色果率(%)	程度(0~4) ^Z
着色	97.4	1.9
無着色	0	0
有意性 ^Y	**	**

^Z果皮着色は0:無、1:微、2:少、3:中、4:多

^{Y**}は1%水準で(t検定、Z検定)有意差があることを示す

表2 幼果時の遮光が「おかやま夢白桃」成熟果の果皮着色に及ぼす影響

区	成熟果の斑状着色	
	着色果率(%)	程度(0~4) ^Z
遮光 ^X	0	0
対照	22.7	0.6
有意性 ^Y	*	*

^Z果皮着色は0:無、1:微、2:少、3:中、4:多

^{Y*}は5%水準で(t検定、Z検定)有意差があることを示す

^X遮光は満開20日後から満開40日後まで行った

表3 幼果時の果皮着色有無が「おかやま夢白桃」成熟果の果実品質、果肉内着色、生理障害発生に及ぼす影響

区	果重 (g)	°Brix	pH	硬度 (kgf)	渋み ^Z	果肉内着色	
						発生率(%)	程度 ^Z
着色	321	14.6	4.6	1.4	0.2	32.8	0.4
無着色	336	14.1	4.5	1.6	0.1	42.5	0.5
有意性 ^Y	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

^Z渋み、果肉内着色は0:無、1:微、2:少、3:中、4:多

^{Y*}は5%水準(t検定、Z検定)で有意差があることを、n.s.は有意差がないことを示す

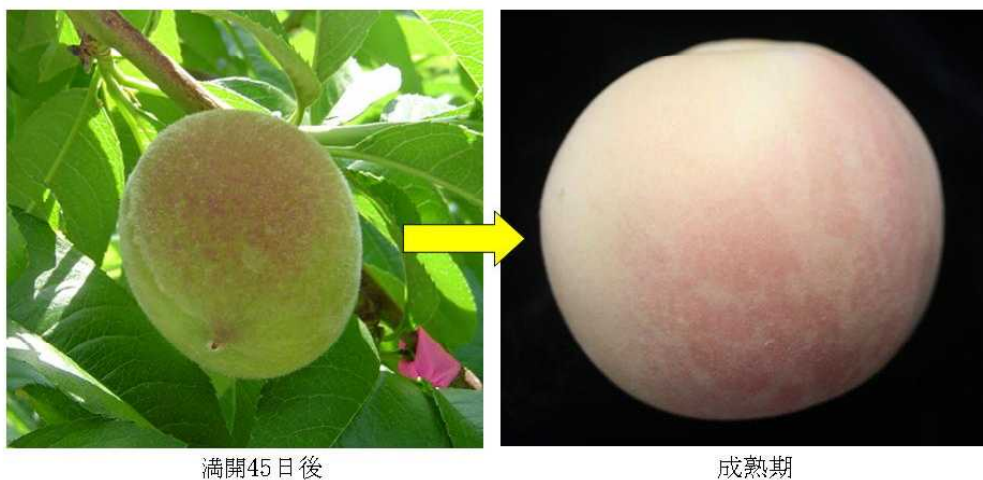


図1 幼果時の着色と成熟期の斑状着色

[その他]

研究課題名：おかやま夢白桃のブランド化のための安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007～2011年度

研究担当者：藤井雄一郎、安井淑彦、永井真弓

関連情報等：1) 笹邊ら(2005)岡山県農試研報、23:13-16

2) 岡山県農業総合センター技術情報 No.31 「「おかやま夢白桃」の育成」

3) 平成19年度試験研究主要成果、13-14